



授業づくりの視点

道徳性を養う中で、児童自身が道徳的価値をこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、自分との関わりで考える学習を行いましょう。

多様な感じ方や考え方に接する中で、児童が自分の生き方についての考えを深めることができるように、書く活動、話し合う活動、動作化、役割演技等の言語活動を取り入れましょう。

道徳科の目標、学級や児童の実態を踏まえた上で、授業全体の方向性を問題解決的な学習としつつ、登場人物への自我関与や役割演技等の疑似体験から考えを導き出す等の指導方法の工夫をしましょう。

授業実践事例

1 主題の設定

最後まで粘り強く〔A希望と勇気、努力と強い意志〕〔第1学年〕

主題の概要

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことは、あきらめずに最後までやり抜くことが大切である。途中で困難や失敗があってもそれを乗り越えて、やり遂げる喜びや達成感を大事にし、努力する自分を認められる心情を育てたい。

学級の実態

本学級の児童は、自分の行くべきことに前向きに取り組んでいるが、自覚はあるものの忘れてたり十分行わなかったりする児童もいる。また、嫌いなことや苦手なことになるとくじけてあきらめてしまう児童もいる。

使用する教材の概要

本教材は、音楽隊の演奏会に向けてらっぱを担当しているこぐまが、うまく演奏できずくじけそうになりながらも練習に取り組み、最後には演奏会を成功させる話である。あきらめかけて再び取り組んだこぐまの思いを想像することで、ねらいに迫りたい。

2 本時の展開

本時のねらい

自分がやらなくてはならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

本時の流れ

教師の発問と児童の学びの姿

教師の手だて

学習発表会の練習を想起し、めあてをつかむ

めあて

うまくいかないことがあったときも、がんばりつづけるためにはどうすればよいか

教材「こぐまのらっぱ」を読んで、話し合う

◎ **学習発表会の合奏の練習をしている時、どんな気持ちですか。**

- ・頑張ろう。
- ・うまくいなくて嫌だな。
- ・できそうにないな。
- ・難しくやる気がなくなったことがあったよ。

◎ **らっぱをかかえ家の前にすわるこぐまは、どんなことを考えているでしょう。**

- ・練習してもできないよ。

◎ **また練習を始めたこぐまは、どんなことを思いながら練習を続けたでしょう。**

- ・もっといい音を出したいな。
- ・みんなを喜ばせたいな。
- ・応援してくれる友達のために頑張ろう。

主体的な学びの手だて 学習発表会の合奏の曲の楽譜を提示することで、今までの曲とは違い難しいということを感じ起こさせる。そうすることで、学習発表会に向けた様々な気持ちを語らせ、本時のめあてにつなぐようにする。

○ **こぐまのお面を用意し、役割演技をさせることで、うまくらっぱが吹けない時の思いを捉えられるようにする。**

対話的な学びの手だて ワークシートや役割演技でこぐまが練習を続けた時の気持ちを表現させることで、こぐまと自分を重ね、役割や責任感に気付くことができるようにする。

◎演奏会后、鳴りやまない拍手を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。

- ・あきらめなくてよかった。
- ・みんなと一緒に演奏でき、楽しかった。

◎うまくいなくても、あきらめずに頑張ったことを紹介してください。

- ・水に顔をつけるのがこわくてできなかったけど、お風呂でも練習を続けて、伏し浮きができた。お家の人も喜んでくれて嬉しかった。

◎今日の学習で分かったこと、できたこと、考えたこと等を教えてください。

- ・こぐまの気持ちを考えることをがんばったよ。

自分の生活を見つめ、努力してできるようになったことと、その気持ちについて考える

教師の説話を聞く

振り返りをする



- 適宜、補助発問や問い返しをして、多面的にこぐまの気持ちを考えることができるようにする。

深い学びの手だて 体育科での活動の写真を提示したり、1学期の学習を想起させたりすることで、自己を振り返ることができるようにする。



- 教師が自分の体験談を語ることで、ねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるようにする。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、一定の時間や内容のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

3 評価

以下の二つの視点から教師が見取り、授業改善につなげ、学期末の個人評価の参考資料とする。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

見取る方法：ワークシートや発表等から



- ・あきらめずに練習を続けてできるようになって、お客さんに見てもらいたいな。
- ・鍵盤ハーモニカの演奏で間違えても、あきらめずがんばる。

最後まで粘り強く取り組もうとする意欲の高まりを見取る。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

見取る方法：全体の交流場面やワークシート等から



- ・こぐまも嬉しかったけど、見に来ていたお客さんも喜んでくれたよ。
- ・跳び箱が跳べたよ。お家の人が喜んでくれて嬉しかったよ。

自分だけでなく、周りの人も嬉しい気持ちになることに気付いている姿を見取る。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

日常生活から道徳的問題を捉えさせる

自分自身の生き方の問題という実感を児童にもたせるために、日常生活から道徳的問題を考え、その解決に向かえるようにしましょう。

Point

多様な考えを促す

問い返しや揺さぶりをかける発問、また、主人公以外の別の立場の人物の気持ちを考えさせる発問等を行い、児童に一つの見方だけではなく、いろいろな見方から考えさせるようにしましょう。

Point

自分の生活を見つめる

自己の生き方について考えを深めるために、自分のこれまでの生活を見つめ、児童が気付きや自らの成長を実感する場の設定をしましょう。



授業づくりの視点

ねらいとする道徳的価値を、生徒が自分の生活に結び付けて考え、自己の生き方について見つめられるような発問や学習活動を取り入れましょう。

生徒が物事を広い視野から多面的・多角的に考え、判断し、表現する力等を育むために、自分の考えを基に議論したり、書いて表現したりする等の言語活動を位置付けましょう。

生徒の個人差のある発達や特性を考慮し、ねらいに即して、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れる等、指導方法を工夫しましょう。

授業実践事例

1 主題の設定

強い意志

〔A希望と勇気、克己と強い意志〕

主題の概要

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならない。困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。

学級の実態

本学級の生徒は行事等に前向きに取り組むことができるが、自分の目標に向けて努力できず、投げ出す生徒もいる。本時では目標や希望をもち、困難や失敗があっても前向きな姿勢を失わず、目標に向けてやり遂げようとする意欲をもたせたい。

使用する教材の概要

事故で重傷を負った筆者は、周囲に心配かけまいと明るく振る舞う。恩師の一言で視点を転換させて、新たな語り部女優という目標を見付け前向きに生きようと決意する。困難を乗り越えて、前向きに生きることが充実した生き方になることを考えさせられる教材である。

2 本時の展開

本時のねらい

希望と勇気をもって最後までねばり強くやり抜こうとする態度を育成する。

本時の流れ

教師の発問と生徒の学びの姿

教師の手だて

「夢や目標を実現するために心がけていること」について想起し、本時のめあてをつかむ

めあて

夢や目標を実現するためには大切なことは何だろう

教材「やさしいうそ」を読む

筆者の気持ちの変化について考える

◎自分の「夢や目標」に向けて具体的に心がけたことやがんばったことはありますか。

- ・人付き合いを大切にする。
- ・特に何もしていない。
- ・体力をつけようと走った。

◎明るく振る舞う私の「体中につまっていたうそと不安」とは何だろうか。

- ・これからどうしよう。でも周りに心配かけたくない。
- ・本当はつらいけど誰にも言えない。

◎語り部女優を勧められ、私はなぜ「これをやれなきゃ自分じゃない」と思ったのだろうか。

- ・自分に残されたものは声だから、その声を生かしたいと思ったから。


主体的な学びの手だて

学校生活や部活動など自身の生活経験を想起させて、本時のめあてへつなぐ。努力したけど、うまくいかなかったこと等も出させて、自分との関わりで考えがもてるようにする。

- 事故により自分の未来に不安と絶望を感じる筆者の思いに共感して考えることができるように、内容を黒板へ整理して筆者の状況を視覚化する。

対話的な学びの手だて

様々な立場から筆者の発言や行動を考え、学級全体で話し合うことを通して、筆者が自分の境遇を受け止め、残された力を生かそうと視点を変えたことに気付かせる。

本時の流れ	教師の発問と生徒の学びの姿	教師の手だて
<p>現在の筆者の気持ちを考える</p> <p>自分の生き方を見つめ、考えを深める</p> <p>教師の話を聞く</p> <p>振り返りをする</p>	<p>◎「私は今、生きることが大好きです」と言えるのは、なぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も必要とされていることが分かったから。 <p>◎夢や目標を実現するために、大切にしたいことはどんなことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことでも乗り越えようとする強い気持ち。  <p>◎今日の学習で新たに気付いたことや考えたこと等を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分はすぐにあきらめてきたけど、希望をもって前向きに生活したいと思った。 	<p>○違う立場の視点で考えさせる補助発問や生徒に理由等を尋ねる問い返しで、筆者の心情を多面的に考えさせたり、自分の事として考えさせたりする。</p> <p>深い学びの手だて 筆者の生き方から夢や希望を実現するために何が大切かを考えることで、<u>自分の生活を振り返り、これからの自己の生き方を見つめさせる</u>。また意見を交流させて、違う見方や考え方を知ることで、自分の考えが深まるようにする。</p> <p>○教師が学級の日常の出来事等から願いを語り、道徳的価値をより身近に感じさせる。</p> <p>○筆者の姿から考えたことや新たな気付き等を書く活動を取り入れ、生徒が自分の考えを整理したり深めたりできるようにする。</p>

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、一定の時間や内容のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。
 ※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

3 評価

以下の二つの視点で教師が見取り、授業改善につなげ、学期末の個人評価の参考資料とする。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

見取る方法：道徳ノートや発表等から

- ・筆者の決してあきらめない生き方を知って、自分も小さな事から挑戦したいと思った。
- ・今まですぐにだめだと思えることが多かったが、前向きに努力することが必要だと思った。

自分の目標に向け粘り強く取り組もうという意欲の高まりを見取る。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

見取る方法：意見交流の観察や道徳ノート等から

- ・筆者は困難を乗り越えて、本当に強くなったんだと気が付いた。
- ・筆者の姿や友達の意見を聞いて、考え方が変わった。自分も目標を大切にしたい。

新たな気付きや考えの広がりを見取る。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

生徒の生活からめあてにつなげる

自分との関わりで考えさせるために、学校行事の写真を使う等、これまでの生活体験を想起させて、めあてにつなげましょう。

Point

多様な考えをもたせる

生徒の反応を予測して、違う道徳的価値からの発問や生徒に理由等を尋ねる問い返しを準備して、多様な考えがもてるようにしましょう。

Point

自己を見つめる学習活動

筆者の生き方と自分自身を照らし合わせる等、人間としての生き方を見つめるための活動を取り入れましょう。